

平成24年度第1回長野市消防委員会

◇ 日 時：平成24年7月18日(水) 午後1時30分から

概 要

《 第 1 部 (午後1時30分から) 》

- 1 篠ノ井消防署更北分署の視察（現場活動想定訓練、車両、庁舎）
 - 2 中央消防署東部分署の見学（建設中）
- ※ 出席委員 12名

《 第 2 部 (午後3時30分から) 》

◇ 場 所：長野市防災市民センター 3階会議室

1 開 会 出席者全委員

2 あいさつ (3:26)

長野市消防局長 岩倉消防局長

長野市消防団長 羽藤消防団長

3 自己紹介 消防局・消防団

4 会長あいさつ 羽生田会長

5 議 事

(1) 報告事項

ア 住宅用火災警報器について

※ 資料に基づき樋口次長説明

会 長：住宅用火災警報器の電池の寿命はどのくらいか？

樋口次長：メーカー側では、10年と公表されている。

イ 広島県福山市でのホテル火災を踏まえた対応について

※ 資料に基づき樋口次長説明

会 長：防火優良認定証は、昔の(適)マークと同じようなものか？

樋口次長：いろいろな基準に適合していると消防が認めた施設においては、掲示をしている。

ウ 小型動力消防ポンプ等の適正化状況について

※ 資料に基づき島田次長説明

会 長：1年ずつ削減しているということか？

島田次長：計画的に当該地区と協議しながら実施している状況

(2) 協議事項

ア 応急手当の普及啓発について

※ 資料に基づき島田次長説明

会 長：自主防災組織の訓練でも積極的に実施していきたい。

イ 地域防災力の強化（自主防災組織）について

※ 資料に基づき島田次長説明

A 委員：住民自治協議会と自主防災組織との関係が課題と考えるが、消防局の目指す体制をお聞きしたい。また、消防団は協力団体となっているが、基本的な考え方をお聞きしたい。

島田次長：住民自治協議会は大きな組織であり、自主防災組織は区長中心であるなど、地域によって構成や役割分担などが相違している状況であると把握している。地域振興部、危機管理防災課など関係部局と協議し理想な形を構築したいと考えている。

羽藤団長：分団長が住民自治協議会の防災部会長に指名されている地域もあるようであるが、災害発生時は団長命令で災害対応をしてもらうので、部会員で協力するような形が理想と考える。

副 会 長：自主防災組織の相互応援とはどういうことか？

島田次長：大規模災害発生時には、単独の自主防災組織では対応が困難な場合があるので、隣接地区の自主防災組織との連携を想定し自主防災組織連絡協議会の設立を推進してきた。

岩倉局長：自主防災組織は 546 組織で結成されているが、32 地区単位である住民自治協議会、自主防災組織連絡協議会での訓練も重要と考える。

会 長：自主防災組織への補助金は 1 回補助をいただくと、その後は 10 年後となっている。協同募金会などでは有効な補助制度があるので、検討をお願いしたい。

島田次長：今後研究する必要性は認識させていただいた。なお、今年度からは、簡易トイレの購入に関しても補助できるよう対応している。

B 委員：救命講習会の開催日程等を公表されているのか？

島田次長：ホームページで公表しているので、ご覧いただきたい。

(3) その他

岩倉局長：応急手当の普及啓発の一環として、小学生高学年対象の救急入門コースを開設した。学校の先生に講習を受けていただいて、子ども達に普及してもらいたいと考えるが、先生方もお忙しくて大変なようである。何かいい方法を教えていただければと思う。

会長：過日の防災研修の中で、自主防災の意義を学校教育の中から教えることが大切だと聞いた。

副会長：専門知識を持った消防職員の退職者の活用はどうか。予算があれば、看護師もいいが、救急の知識を持ったOB活用はどうか。

C 委員：日赤では病院祭の中で、AEDの講習会を開催している。その時に来ていただければ対応可能。実際にやっているところはあるのか。

岩倉局長：埼玉の方で、学校教育の中でやっているようなことを聞いている。

D 委員：市民病院では、近くの信大附属小中学校に救急講習に出向いている。これは、看護協会の出前授業として実施している。

C 委員：学校では、養護教師、保健体育の教師が救急の知識を持っている。啓発の方法としては、一堂に集めても大勢の中では手を出さない。少人数での講習が効果的と思う。

岩倉局長：東日本大震災後、子どもたちへの防災教育の必要性が叫ばれている。本日のご意見を参考させていただきながら、研究してまいりたい。本日は、ありがとうございました。

6 閉会